

久多・百井 かがやき新聞

京都市 久多いきいきセンター創立 20周年記念式

9月5日（火）、京都市久多いきいきセンター創立20周年記念式が行われました。京都市消防音楽隊によって披露された防火コンサートでは、吹奏楽による「お嫁においで」「上を向いて歩こう」「四季の歌」などの、歌謡曲や唱歌が演奏され、会場は大きな拍手に包まれました。気持ちの良い晴天に恵まれた久多で歌われた「ふるさと」の《忘れがたき故郷、山は青き故郷、水は清き故郷》歌詞が心に深く響きました。



消防音楽隊演奏の間には、防火クイズコーナーも催されて防火意識が高まりました。

百井の歴史や伝統行事について伺っています

林百井自治振興会長から、集落の歴史、伝統行事についてお話を伺いました。百井は平安時代後期に、源氏方の近江佐々木一族が田畑を開いたとされ、醍醐三宝院領や、朽木旗本領に属していたこともあるそうです。元禄の頃より製炭法が普及し、炭を焼いて鞍馬に卸すのが盛んとなり、昭和30年頃まで、木炭は良い値で取引されたそうですが、プロパンガスの普及が進んだことにより衰退したとも伺いました。

思子淵神社では春祭と秋祭が行われること、百井住民が交代で神主を務める「宮座」が残っていることも伺いました。安曇川流域の集落にみられる「シコブチ神社」が鎮座することも、朽木氏（源氏佐々木氏分流）との関係が深いことを感じます。



百井に鎮座する思子淵神社。安曇川流域は10社以上の「シコブチ」神社があるそうです。

とちの実収穫体験に市民ボランティアが集いました

9月24日（日）、久多で行われた「とちの実収穫体験」に、12名の市民ボランティアが集いました。とちの実は地域の特産品として重宝されてきましたが、近年はシカ等による被害や、収穫作業をしていた方の高齢化のため収穫量が減っています。そこで、市民ボランティアを募った、とちの実収穫体験が催されるようになり、今年で4年目となりました。

参加者の方々からは「なかなか入れない奥山の自然に触れることができた」「名前しか知らなかった、とちの実を実際に見ることができた」など「参加して良かった」の声が聞かれ“まちと山間部”をつなぐ取り組みが、実を結んでいることが伺えました。急斜面の山道を登っての「とちの実収穫体験」主催者の方々、参加者の方々ともに、大変お疲れ様でした！



多くの市民参加があった「とちの実収穫体験」前月には獣害防止ネット張りも行われました。



11月12日（日）10時～15時
「久多 秋の里山まつり」が開催
されます！皆さま、お誘い
あわせの上お越しください。

京都市文化市民局 地域自治推進室
京都市北部山間かがやき隊左京区担当

南 佳孝

※かがやき新聞3号「花笠踊りに参加しました」記事内、志古淵神社での奉納の流れについて誤りがありました。正しくは『先番の踊り奉納の後、神殿による口上をいただき、後番の踊り奉納が行われる』です。謹んでお詫び申し上げます。

Mail: miqdc318@city.kyoto.lg.jp
久多出張所 tel:075-748-2020